

令和7年度 大阪市立大正西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【3年生チャレンジテスト】

【成果と課題】

【国語科】

【調査結果概況について】

「全体の平均点」、「読むこと」、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「書くこと」に関しては、昨年度よりも差を縮めることができた。

◎無回答率

無回答率の減少に今年度は重点的に取り組んでいたが、結果は以下の通りであり、成果をおさめることができた。大阪府10.0% 本校6.8%

【数学科】

【問題別調査結果について】

◎全体の平均点

大阪府53.9点に対し、本校44.8点であり、9.1点下回った。

以下、得点率に注目し、分析を行う。

◎学習指導要領の領域別平均点

「数と式」の領域において10.7%、「図形」の領域において7.1%、「関数」の領域において7.8%、「データの活用」の領域において11.4%、大阪府の平均を下回った。

◎評価の観点別平均点

「知識・技能」の観点において9.7%、「思考・判断・表現」の観点において8.0%、大阪府の平均を下回った。

◎問題形式別平均点

「選択式」の形式において9.1%、「短答式」の形式において8.6%、「記述式」の形式において11.2%、大阪府の平均を下回った。

【理科】

【問題別調査結果について】

全体の平均点は、本校が39.6点、大阪府が46.0点で6.4点のマイナスであった。観点別に得点率をみると、思考・判断・表現は1.7ポイントのマイナス、知識・技能は4.7ポイントのマイナスとなり、知識・技能が大阪府平均より下回る結果となった。領域別にみると「エネルギー」の得点率は大阪府平均マイナス0.8ポイント、「粒子」の得点率は大阪府平均マイナス1.4ポイント、「生命」の得点率は大阪府平均マイナス2.8ポイント、「地球」の得点率は大阪府平均マイナス1.4ポイントであった。大阪府平均を本校平均が上回った設問は、火成岩についての問題など、選択・記述問題であった。得点率において大阪府平均との差が15ポイントを上回った設問は5問あり、うち3問が選択問題、2問が短答式であった。また10問のうち2問無解答率で15%を超えていた。

<課題>

課題として「生命」分野での無回答は少なかったが、「粒子」の無回答が24.2ポイントであった。質量パーセント濃度などに関しては、定期テスト・実力テストにも同じような問題を出題していた。ただ、問題演習にかける時間が少なく、身につけていない生徒が多かったのが現状であった。

【英語科】

【問題別調査結果について】

◎全体の平均点

大阪府53.2点に対し、本校57.3点であり、4.1点上回った。

以下、得点率に注目し、分析を行う。

「聞くこと」の領域において大阪府の平均点を1.0点、「読むこと」の領域においては0.4点上回った。

◎評価の観点別平均点

「知識・技能」+3.2点、「思考・判断・表現」+0.9点と、大阪府平均を上回った。

◎問題形式別平均点

「選択式」+2.3点、「短答式」+0.1点、「記述式」+1.8点と大阪府平均を上回った。

◎上記の結果から

すべての領域で、大阪府平均を上回った。

【社会科】

【問題別調査結果について】

・全体の平均点は、本校が46.0(昨年度41.4)、大阪府が51.2(昨年度50.4)で、-5.2(昨年度-9.0)ポイントであった。昨年と比べて、府平均との差を大きく縮めたが、まだ府平均には届かない。

・知識・技能は、本校が33.1(昨年度31.5)、大阪府が36.5(昨年度37.7)で、差は-3.4(昨年度-6.2)ポイント、思考・判断は、本校が12.9(昨年度9.8)で、大阪府が14.7(昨年度12.7)で-1.8(昨年度-2.9)ポイントと、観点別では知識・技能、思考・判断の両面で差を縮減している。

・問題形式別で見ると、府平均との差が選択式で-3.4(昨年度-7.3)ポイント、短答式で-1.7(昨年度-0.6)ポイント、記述式で-0.2(昨年度-1.0)ポイントと、選択式・記述式で差を縮めたものの、短答式では差が拡大している。

・分野別でも、地理・歴史とも府平均より低い。歴史的分野-2.1ポイント(-2.6ポイント)よりも、地理的分野-3.1(昨年度-6.5ポイント)の方が、府平均との差を大きく縮減している。

・正答率で比較すると、府の正答率を大きく上回った問題が地理・歴史の両分野に存在するのに対して、府の正答率を大きく下回った分野は地理分野に偏っている。このことから、地理分野での知識の偏在と、地図やグラフを読み取る力の不足が認められる。地形図を読み取る力や、グラフや表を読み取る力など、知識に頼らない根気強い読解力の錬成が課題として認められる。

令和7年度 大阪市立大正西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

【今後の課題】

【国語】

・得点分布グラフを見ると、昨年度の課題であった2番目に多かった20～24点台の割合(11.6%→6.2%)まで減少させることができた。また85～89点の12.3%が今年度最も多い割合であり、下位層と上位層を伸ばすことができた。今後は45～69点の中間層を上位層へと伸ばしたい。

・アンケート結果より、「普段(月曜日から日曜日)、1日平均どれくらいの時間、学習以外(ゲームやSNSなど)にスマートフォンやタブレットを使っていますか。」という設問に対し、4時間以上と回答した生徒が本校は51.6%(大阪府38.6%)であった。
この結果から家庭学習に費やす時間の少なさがうかがえるので、宿題を増やす等したい。

【数学】

上記の結果より、いずれの単元においても、基礎的な知識技能が定着していないということが分かった。「数と式」では、具体的な事象を式に表すことはできていたが、基礎的な式の展開や方程式の計算の正答率は低い。

今後は、各単元の基本的な計算問題を何度も繰り返し解く機会をつくり、必要な解法の定着をはかる。特に、数と式の基礎的な計算や、基礎的な方程式の演習に重点を置く必要がある。

【理科】

「粒子」の化学分野の学習の定着を図るために、教科書の実験をできるだけ行う。スタディサプリなどのツールを使い学習の定着を図る。また、問題演習の時間を取り、同じ問題を繰り返し取り組ませることで、定着につなげていく。

【英語】

大阪府平均より昨年度は+5.3点、今年度は+4.1点であった。新年度は、新入生の学力向上から始めていくため、教材研究や授業の工夫から始めていく。

【社会】

・知識・技能の向上には、定期的を実施する小テストや練習問題の効能が大きい。今後とも、これらを活用して知識の定着をはかることが重要である。

・同時に必要なのが、記述問題や正誤選択問題などに対応できる応用力・読解および記述力を養うことである。こちらは一朝一夕に身につくものではないので、粘り強い学習姿勢を養うことから始めなければならない。